【めむろ未来ミーティング】

令和 5 年 3 月 22 日（水）

15:00～16:45

めむろの未来と夢を結ぶ会

■参加者　めむろの未来と夢を結ぶ会　5 人
■芽室町　町長、魅力創造課長
　　政策推進課長補佐（記録）

■対応・検討が必要な事項
①役場に新設する「チャレンジ窓口」から繋がるメムロドリームラインについて（まちなか再生３課）

１　自己紹介
２　意見交換

テーマ
「私たちが目指したい芽室町の未来」について

【意見交換】

●団体
　新年度から、芽室町役場に、何かやりたい、チャレンジしたいという人たちが気軽に来られるような窓口ができるという話をきいて、どういった窓口名がよいのだろうと考えていくなかで、本気で芽室のまちづくりについて考え始め、まちづくりに対する構想が広がり始めた。今日は、私たちが目指したい芽室町の未来についての話ができればと思う。

　まず最初に、上川町での視察内容を報告したい。上川町には、ちょっと面白い人、いわゆる地域おこし協力隊が地元に根付いて、うまいこといっている。なぜそれができたかというと、都市部の若い子にすごく刺さりやすい魅力的なパッケージが上川町までの導線になっていたことにある。価値観に共鳴するようなエネルギッシュな人たちが次々と上川町に集まって活動している。一方、感じたのが、町民の人達との距離。都市部の若い子にとっては、すごく魅力的なパッケージも、地元の人達には取っ付きにくく、結果、うまい化学反応が起きていない。魅力あるパッケージというのは、強い武器になるけれども、地元の人たちを置いてきぼりにするようなテーマを選んでしまうと、せっかく面白い人が来ても、摩擦が起き、もったいないところに行き着いてしまうのだというのを学んだケースである。

　東川町にも、やはり面白い人たちがたくさん集まってきて、こちらは地元の人たちもそれを後押ししてる。東川町の場合は、1985 年に「写真のまち」というテーマを作ったことで、外から人が来て、今まで地元の人たちが気づかなかった東川町の魅力というものの気づきを、外からの人に気づかされたというのがある。地元の人たちが、自分達がいるまちというのは、全国的に見ても魅力的な場所なんだということが分かるということ。それが、この町の成功要因であると考えている。

　両町から分かったことは、すごく尖ったパッケージを作るというのは、大事なこと。そして、もう一つ大事なことは、いかに地元の人たちと一緒に共有をして、一緒に進んでいくのかということ。

　そこで、これを「芽室」として考えてみたい。芽室というのは、非常に魅力に溢れた町である。そして、その魅力をつかって、たくさんのエネルギーをもったプレイヤー達が、いろんな方向に向かって進んでいる。問題は、せっかくのそのエネルギーが、まとまっていないということ。
　芽室には、「誰かの夢をみんなで応援する」という風土がある。この芽室町独自の風土をパッケージ化したらどうだろうか。そういった風土があるからこそできるまちづくり。
「誰かの夢を今あるステージよりもさらに広いステージに後押しする」「誰かの夢を航路と見立てて、その目的地まで皆でつないでいく」という、芽室町版

のパッケージ。

例えば、役場の中に、「夢の国際線」という窓口ができて、そこから、町内の各プレーヤー達につながる「メムロドリームライン」ができるというのはどうだろうか。役場の本気の姿勢がみえれば、そのまちの印象や見え方はものすごく変わる。民間ではなく、役場にそういった窓口があるということに大きな意味があると思っている。そうなることで色んなプロモーションにつながり、結果として、いまバラバラに活動しているプレイヤーも、それぞれが楽しみながら参加できるパッケージになり得るのではないか。これを芽室のブランドとして育てれば、きっと素晴らしいまちに進んでいくのではないかと思っている。

【町長】

役場が空港で、町が管制塔となり、それぞれの航路をコントロールしていくといった発想は素晴らしいと思う。ただし、その国際線の到達点はどこなのか、といったコンセプトやストーリーは必要。また、名称をどうするかというのも、実は入口として、結構大事なことと認識している。

皆さんのコンセプトを何とか生かしたいと思うが、どうやって役所が関わっていくのかというところも役割分担を明確にしていかければならないと思う。

【団体】

現状としては、いま芽室町には、なにか新事業立ち上げたいという人たちの相談窓口のようなものはない。そういう人たちが、すごく気軽に使える窓口が、役場の中にあってほしい。役場に最初から最後まで関わってほしいということではなく、各航路にはたくさんのプレイヤーたちが居て、町はそこにつなげるような機能を果たしてもらえるとすごくいいと思っている。民間でもやることはできるが、やはり、役場が最初の窓口であるということでの安心感や信頼性というのは非常に大きい要素だと思っている。

【町長】

あとは、地元の人たちとの関係は非常に大事な要素。当然色んな考えの町民がいる。想いを理解してもらうのは、ひとつの大きなハードル。そういったコーディネートの役割を役所がうまく調整していくというのもひとつだとは思う。

あともう一つは、まちなかで何かしようと思っても、実際、物件があまりないという課題もある。いま、町は、議会に対しても財産はもたないとして説明しているが、今後状況によっては、町がまちなかにそういった土地なり建物を確保することを検討するケースも出てくるかもしれない。

【団体】

まちなかに、交流拠点は必要だと思うが、コワーキングスペースとしてのハコモノを作るのが正解なのか少し疑問に感じている。それよりは、新しく出店するお店には、必ず一角に何か作業ができるスペースを用意してもらうことを条件にすると、交流拠点がまちのなかのあちこちにたくさんできる。交流拠点が分散することで、自分の感覚に合うところをまわるノマドスタイルが芽室には合っているのではないかと思っている。

こちらは車社会。目的地まで車で直接乗りつけて、それで用事を済ませてまた車に乗って次のところ行くというのが生活のパターン。そこで、キーとなるのは「歩いて楽しめるまち」。すごくこだわったような世界観を持っている専門店みたいなそのものが集まった魅力的なまちなかがあれば、とりあえず用事がなくてもそこ行ってみようかとなり、半日ぐらいいてしまうような状態が作れると思う。

【町長】

町は、これから「まちなか再生ビジョン」を作っていくが、きちんと目標や目的はきちんと書き込むけれども、いろんな業種業態がチャレンジできるように、広く読み取れるような感じがよいと思っている。色々な可能性に繋がるようなビジョンにしていきたい。

【団体】
自分も含めて、この芽室町が好きで、この町で面白いことをやりたい、楽しいことをやりたいという人がたくさんいる。そして、そういった人たちが、芽室町を盛り上げるプレイヤーとして様々活動している。そういった面白いことの活動の延長が、町長が考えているまちづくりに繋がっていると思っている。そういう人たちを、役場にもうまく利用してもらいたい。役場と絡むことで、さらに進化していけると思う。

【町長】
まちなかを再生できるのは、今が最後のチャンスだと思っている。
こうして、まちづくりに関心をもって、何かやりたい、何かチャレンジしたいという人たちが、芽室町にはたくさんいる。そういうタイミングを逃す手はないと思っている。
やはり、政策としてピンポイントで引っ張り出して進めていかなければならない。そういうときに、何か提案してくれたり、あるいは頑張ろうとする人を助けるということは大事だと思っている。
しがらみも確かにある。100%の町民が理解できる方向は現実としては存在しない。
先日、地域ブランディングを「スイートコーン」を核に進めていくことに決定した。これも、町民には賛否両論あるかもしれない。「スイートコーン」が直接的にまちなか再生になるとは思っていない。しかし、スイートコーンがひとつのきっかけとなって、まちなかだけではなく、まち全体の産業や雇用の振興につながっていく可能性は十分にあると思っている。総合的にいろいろ盛り上げるという方法もあるが、それでは、それぞれの打つものが弱くなってしまう。なので、一点突破で地域ブランディングを進めていくという政策の決断をした。

【団体】
今回、我々はまちなかで新しいチャレンジをしようと思っている。そのためには、仲間が必要で、そういう仲間をどんどん広げていきたいと思っている。

【町長】
そういう仲間をたくさん広げて、みんなが応援してくれるようになるといい。
芽室の特徴として、チャレンジ精神があって、なにか新しいことをやりたいという人がすごく多い。しかし、当然町民の中にはいろんな考えを持った人がたくさんいるのも事実。
色々な活動をやってくれている人たちがたくさんいるが、それが一つにまとまっているかというとそうではない。しかし、無理に同じ方向に向かせる必要もないと思っている。最終的に、みんながいいまちにしようと思ってやってくれるのが一番だと思っている。

【団体】
そういうバラバラに活動している人たちを一つにまとめるのが、「夢の国際線」を入口に繋がる「メムロドリームライン」だと思っている。方向は別々だけど、目指す目的は同じというイメージ。お互いに、目的や行動を批判しないというのが大事。

【町長】
現実に、いま想定している物件はあるのか。

【団体】
物件探しは苦労している。まちなかを見ても、シャッターが閉まっていても住んでいたり、売りにでているものもない。個人的に声かけをして探している状況。例えば、条件が良ければ、賃貸や売却が可能なのか、あるいはそうはならないのか、その辺でちょっと踏み込めていない。そういう物件についての情報は町にも協力してもらえればと思っている。

【町長】
まちなか再生をやるスタートのタイミングで、まちなかの商店街について、空き家や人が住んでいるといった色付けは行っている。しかし、そこから 3 年くらい経過しているので、もう一度きちんと調査する必要があると思っている。

まちなか再生をやるのに、物理的に土地や建物の整理ができていないという話にならない。役所だから調べられる部分もあるので、そういったデータベースは必要と思っている。

【団体】
まちなかに、まずは一軒でもモデルケースができると流れができると思う。流れができれば、あとは手放しても、ある程度勝手に進んでいくと思う。
町が、補助金を出すときの　最初の条件設定というのがすごく大事。
役場観点からいえば、やはり、公正・公平性が一番に来るとは思うが、すこし尖った条件を設定し、まちのわがままを伝えてもいいのではないかと思う。例えば、「芽室町の木材を使う」「外とのつながりを必ず持つ」「子どもが楽しめる仕掛けを作る」といった条件をつけて、少しハードルをあげることで、町が思い描くまちづくりに本気で共感するひとが集まるのではないかと思う。

【町長】
条件を厳しく設定するというのもひとつの方法だが、まずは、町は、その人が何を思ってどういうふうにしようとしているのかという想いを十分にヒアリングすることが必要かなと思っている。やはり補助金は町の税金を投入するわけで、予算化したはいいが、すぐにいなくなられるという事では困る。
スタートとしては、商工会に入る、企業相談・研修を受けるといった条件が入ってくることになるが、今後進んでいけば、何か条件を外したり、逆に何かを付けるということにもなるかもしれない。

【団体】
我々の活動はモデルケースになる案件だと思っている。それと、新年度から新しくできる役場の窓口が繋がるのではないかと思っている。まず、始めの一歩として役場の窓口に相談をして、そこから「メムロドリームライン」に乗るとうまくいくんだというのをリンクさせていけたらいいと思っている。

【町長】
窓口を作るにあたっては、特に課を作るわけでもないし、そういった機能を新たにつけるという発想。
町としては、シナリオとかストーリーをきちんと説明できなければならない。そこのあたりの整理を今後内部で検討していく。

【意見】
役場内に、メムロドリームラインにつながる窓口ができれば、いろんなプロモーションが展開できると思っている。その輪がどんどん広がり、ファンを増やしていけば、「メムロドリームライン」という言葉だけで、芽室ってドリームラインある町だよねと、勝手に宣伝されていくことに繋がるのではないか。

【町長】
今後は、担当課と具体的に協議してもらうことになるが、先ほども言ったように、町としても誰に対してもコンセプトだとかシナリオをしっかり説明していかなければならない。あまり時間はないが、そこの整理をさせてもらえればと思う。

（16 時 45 分終了）